

展を示し、その名残を今日にも傳へてゐるではないか。佛教思想と儒家道家の思想との間には多くの不一致の點があつて、種々の摩擦衝突を生じたにも拘はらず、彼等は上下一般に此の外來の教を奉ずるに至つたではないか。尤もこれは宗教であつて、元來支那に安心立命の宗教の説かれたものが無かつたから外來の教ながら此の如き盛況を見るに至つたのであつて、一般文化に於けるのとは區別しなければならぬといはれるかも知れない。それならば藝術は如何、科學—例へば天文・曆法・藥方・醫術等の如きは如何、音樂は如何、其他例へば唐代西域地方との交渉頻繁であつた當時に於ける長安・洛陽を始め、都鄙人士の好尚の西域化、風俗の變遷は如何、もしくは元代に於て蒙古の習俗が漢族の間に滲透し、明の太祖をしてこれが改廢に努めしめた有様は如何、擧げ來らば他の時代に於ても多くの類例を指示することが出來、漢族の保守性が一般民族に通有するところよりも假令何程か強いとしても、然も必ずしも保守を固持するものでは無く、その固有の文化を捨て、外來のそれに奔つたのは、獨り近時に於てのみ認められる特異の情態ではないことを觀取し得られるであらう。

またその同化力とても、必ずしもすべての民族文化に對して作用を爲したものではない。假りに、一例を取ると、今日支那幾千萬の回教徒中、祖先以來支那に於ける生活の長いものでも、尙ほ支那化せざるところを有するもの多く、支那の社會に在りながら別に宗法の社會を維持し、支那の民族社會の經濟體制、または風俗習慣をも無視して、衣食住共に可なり相違を有するものゝあることは周知の事實である。また支那と西域諸國との交渉は甚だ古い時代に遡るが、これ等の地方に據つた民族が文化の上に於て漢化した程度は、東方諸國民のそれに比して甚だ低く、兩者互に遊離し、同化の實を著しく示さないで、古來今日に至つてゐること疑なき事實である。